

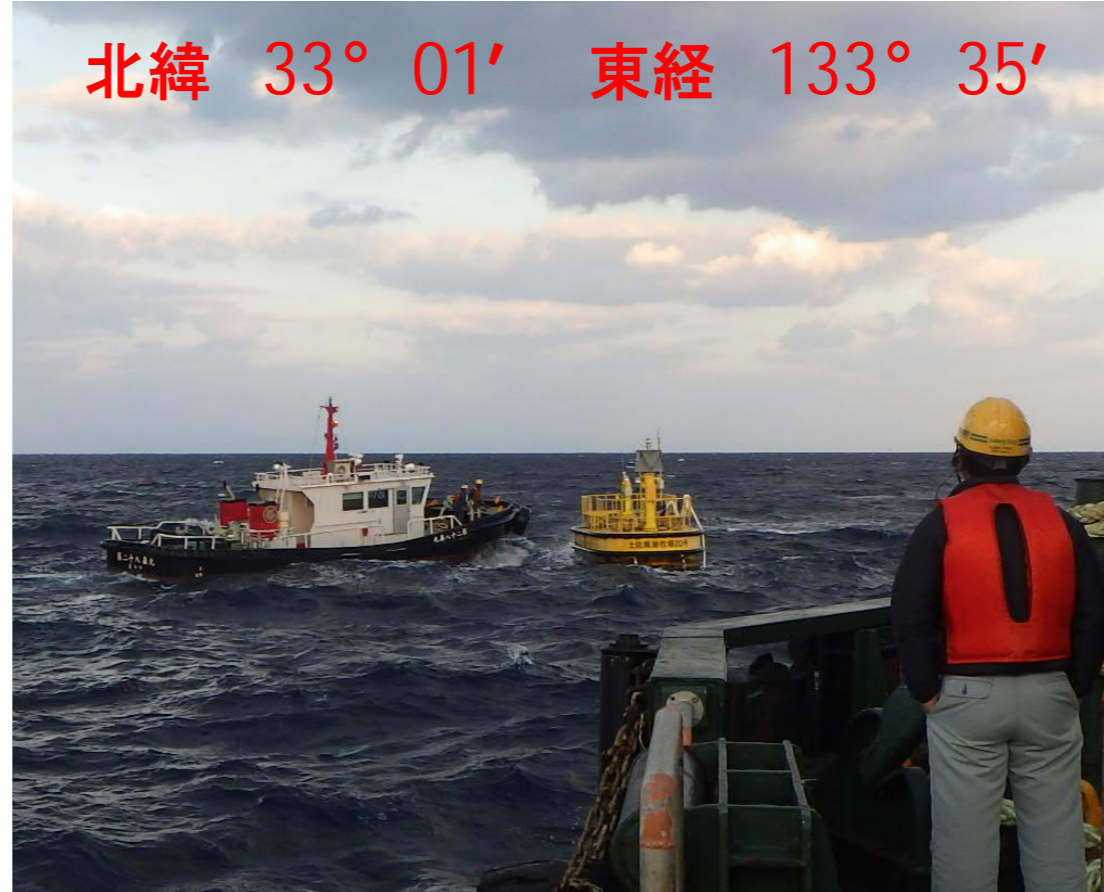
久礼港・道の駅に黒船来航

日曜日の久礼港岸壁「道の駅なかとさ」前に、黒牧を回収する起重機船が接岸。お父さんに肩車された男の子が、嬉しそうに見てくれました。



日曜日で利用者の多い道の駅、左上に黒潮本陣を望む

北緯 33° 01' 東経 133° 35'



浮体に移る瞬間、現場に最大の緊張が走る

黒牧の回収作業は、気象と時間との戦いになります。事前に想定出来る限りの準備をして当日に臨みますが、同じ条件での作業は、二度とありません。

波と風との闘い
黒牧の浮体確保

黒牧新聞

SDGs:浮体式藻場造成

海に向かう準備

黒牧の浮体と係留索は、海の中で10年間役割を果たします。この日、工場では浮体の水密試験が行われました。



強制的に水をかけ品質を確認する(倉敷市内)

今回の発行所



壁新聞の主な配布先

- ・漁協
- ・町内会
- ・保育園
- ・小学校
- ・中学校
- ・高校
- ・自治体
- ・森林組合
- ・観光協会
- ・大学
- ・みなとオアシス

海の上の森づくり推進協会によれば、浮体式藻場造成の可成りが示されています。今回の回収では、係留索の付着物から、水深ごとの植生や生態系のデータが得られるので紹介しようか？ 回収手順を写真で紹介いたします。



水深50m

浮体下チェーンを確保し



50m~250m

チェーンと上部索を切り離す



50m~450m

上部索を巻取



450m~700m

所定の長さで束ねる



450m~700m

ウインチで巻き取り



450m~700m

下部索を切り離しながら